令和 2 年度 JaNSSL 研究活動推進委員会調査報告書

「シミュレーション教育に関する課題と支援ニーズに関する調査」

令和 2 年度研究活動推進委員会
大川宣容、織井優貴子、小西美和子、杉山文乃、益田美津美、八木街子

1 背景

シミュレーション教育は、看護実践能力を育成するための教育方法として認識され、看護基礎教育課程において既に導入されている。しかし実施においては、教育環境、教員不足、時間不足など様々な課題があることが示されており、シミュレーション学習を効果的に活用するためには、シミュレーション教育の現状とシミュレーション教育を実施するための支援ニーズを明らかにする必要がある。

そこで、日本看護シミュレーションラーニング学会研究活動推進委員会では、学会員を対象として、シミュレーション教育に関する現状と支援ニーズについて調査を実施した。

2 目的

学会員を対象として、シミュレーション教育に関する現状と支援ニーズを明らかにし、学会の活動方針を決定するための基礎データとする。

3 調査方法

1) 対象者

調査依頼時点での本学会の会員を対象とした。

2) 調査期間

2020 年 3 月末～4 月末

3) 調査依頼

学会員に対して、学会総務委員より調査依頼(資料 1)をメールで送信し、調査協力に同意する場合は、オンライン上の調査票にアクセスし回答することを依頼した。

4) 調査内容

調査内容は、資料 2 に示した項目をオンライン上で解答できるように設定した。基礎データ（所属、領域）については多肢選択法、シミュレーション教育の活用の現状（8 項目）とシミュレーション教育を活用する目的（7 項目）についてはそれぞれの項目について 2 項選択、支援ニーズ（11 項目）に関しては、必要ない～非常に必要であるまでの 4 段階尺度、シミュレーション教育の実施に関する課題と学会に期待することについては、自由記述で、それいぞれ回答を依頼した。

5) 分析方法

得られたデータは単純集計でまとめ、項目ごとに選択肢の度数を算出しグラフで提示した。また、自由記述の内容については、類似した記述をカテゴリー化してまとめた。

4 倫理的配慮

本調査への協力依頼、および倫理的配慮の説明は、学会員宛のメール依頼状と、Web アンケートの説明文により行った。

それぞれの文中に、調査目的、意義を記載し、調査協力は自由意思であり協力の諾否による不利益は一切受けないこと、Web アンケートへの回答・送信をもって同意とみなすこと、データは匿名化して収集するため、一度送信した回答の取り消しはできないこと、データの集計方法、公表の方法、調査終了後のデータの管理について明確に記載した。

5 結果

1）回収率

215 名中 89 名が回答（回答率 41. 4%）した。有効回答数は 76 名（有効回答率 85.4%）であった。

2)回答者の属性

回答者の立場を図 1 に示す。回答者の半数以上が看護系大学教員であった。その他は企業看護師 1 名、大学病院助教 1 名であった。回答者の所属を図 2 に示す。私立大学が 43 名と最も多く、次いで国公立大学が 16 名、病院が 10 名であった。回答者の専門領域を図 3 に示す。その他には助産学(6 名)、看護管理学(3 名)、病院勤務(2 名)、継続教育(2 名)、新生児看護、周術期看護、医療安全、多職種連携教育、救急看護、(各 1 名)であった。該当なしは 3 名いた。

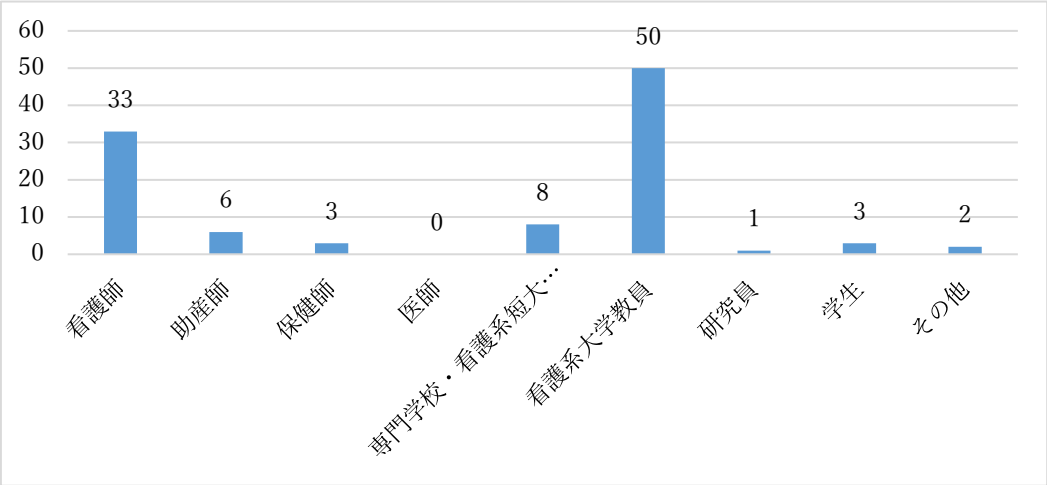

図 1 回答者の立場(複数回答可)

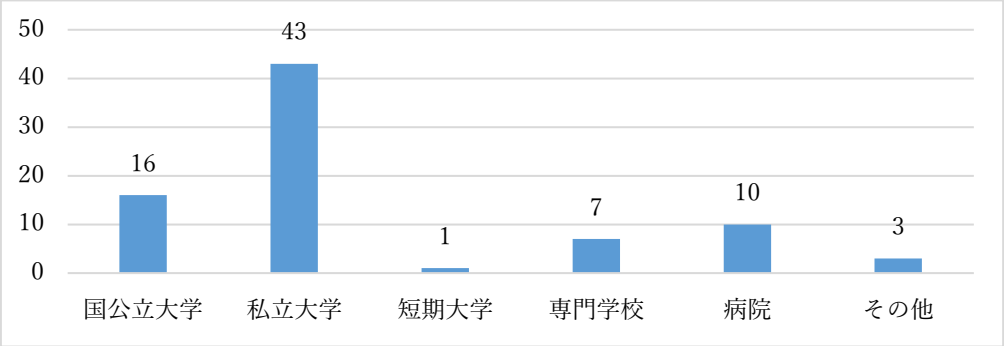

図 2 回答者の所属

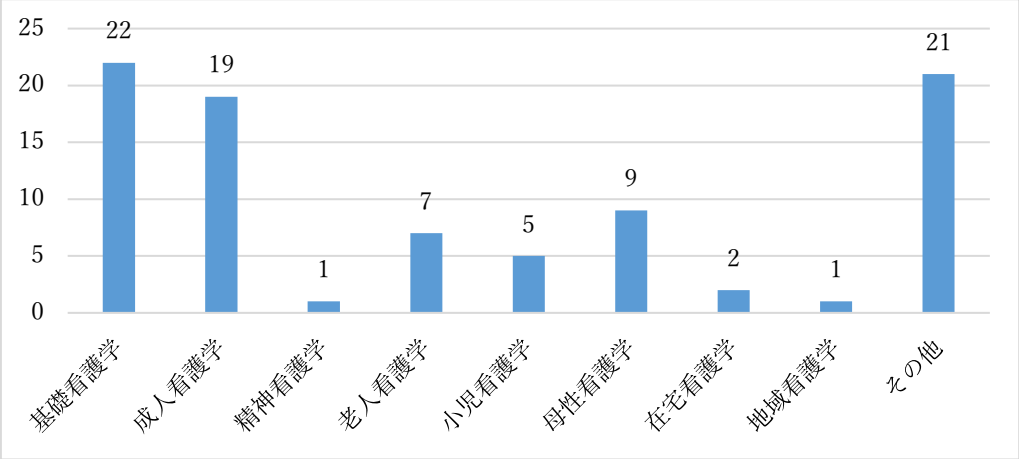

図 3 回答者の専門領域

3）シミュレーション教育の実施状況

所属施設でシミュレーション教育を実施している回答者は 71 名（93.4%）であった。所属施設でのシミュレーション教育の活用状況を図 4 に示す。①特定の科目の中で活用されている場合が最も多く、次いで③実習の導入として活用されていた。⑦実践能力の評価としても 29 名が活用していると回答した。②科目横断的に、⑤学年を超えて、といった縦横断的な活用は実施されているものの少ないことが明らかになった。

その他の活用状況として、「卒業前教育として」「新人看護職員研修とラダー別研修で活用している」「特定のコンピテンシーを養うため」「臨床の新人を対象に」「臨床看護師への教育（研修参加者対象にシミュレーション）」「臨床ナースの教育」「新人看護師夜勤導入前の多重課題トレーニング」リーダー看護師の急変時対応の学びとして」「ラダー別」という記載があった。

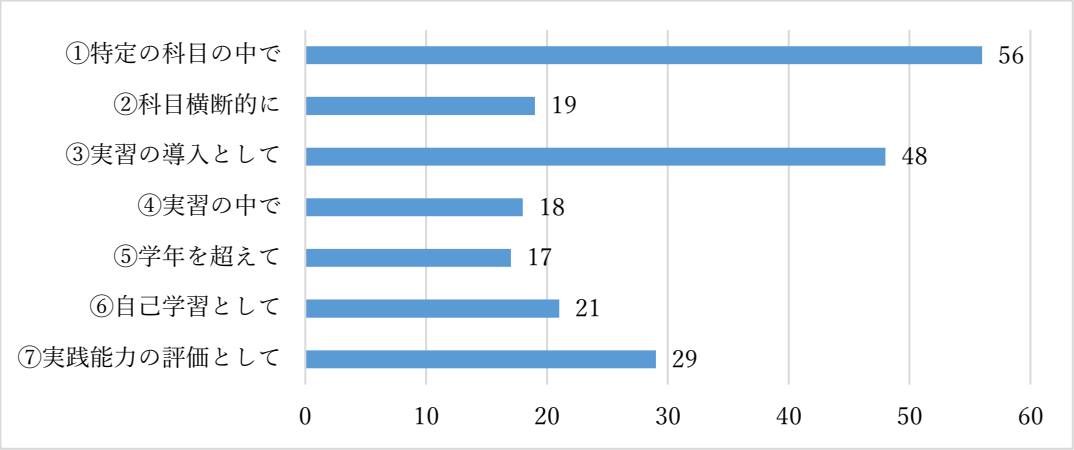

図 4 所属施設におけるシミュレーション教育の活用状況（各項目「はい」の回答数）

回答者自身のシミュレーション教育の実施状況について、69 名（90.8%）が実施していると回答した。図 5 に示す通り、回答者がシミュレーション教育を実施する目的は、①知識と実践をつなぐためが 68 名（98.6%）、②臨床的思考プロセスを教授するためが 61 名（88.4%）、③技術習得を支援するためが 55 名（79.7%）であった。多くの回答者が複数の目的でシミュレーション教育を実施していることが明らかになった。

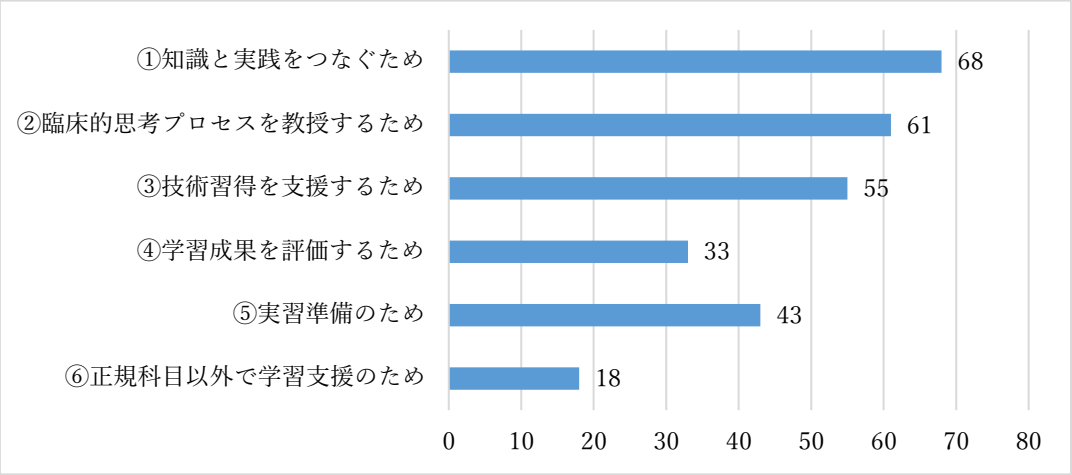

図 5 回答者が行うシミュレーション教育の目的（各項目「はい」の回答数）

その他の目的として、「臨床指導者にもシミュレーション教育に参加してもらい、実習前の学生のレディネスを把握し、学生と交流をもってもらうため」「知識・技術・態度の統合」「デブリーフィングを繰り返すことで、コーチング能力の上昇と、各病棟での OJT に活かすため」「症状から今の状態を考える思考力を鍛える。アセスメント能力のアップ」「多職種連携のため」「OSCE」「態度トレーニングのため」「学生の主体的な学習支援」「学内の安全な環境の中で安心して看護技術を習得できるように。思考を可視化できるように。」「臨床での場面の検証や実践力の向上」「新卒訪問看護師育成」などの自由記載があった。

4) シミュレーション教育を実践する上での支援ニーズについて

図 6 に示した通り、回答者がシミュレーション教育を実践する上でどの程度支援が必要かに関しては、提示した 11 項目すべてにおいて半数以上が「非常に必要である」と回答した。

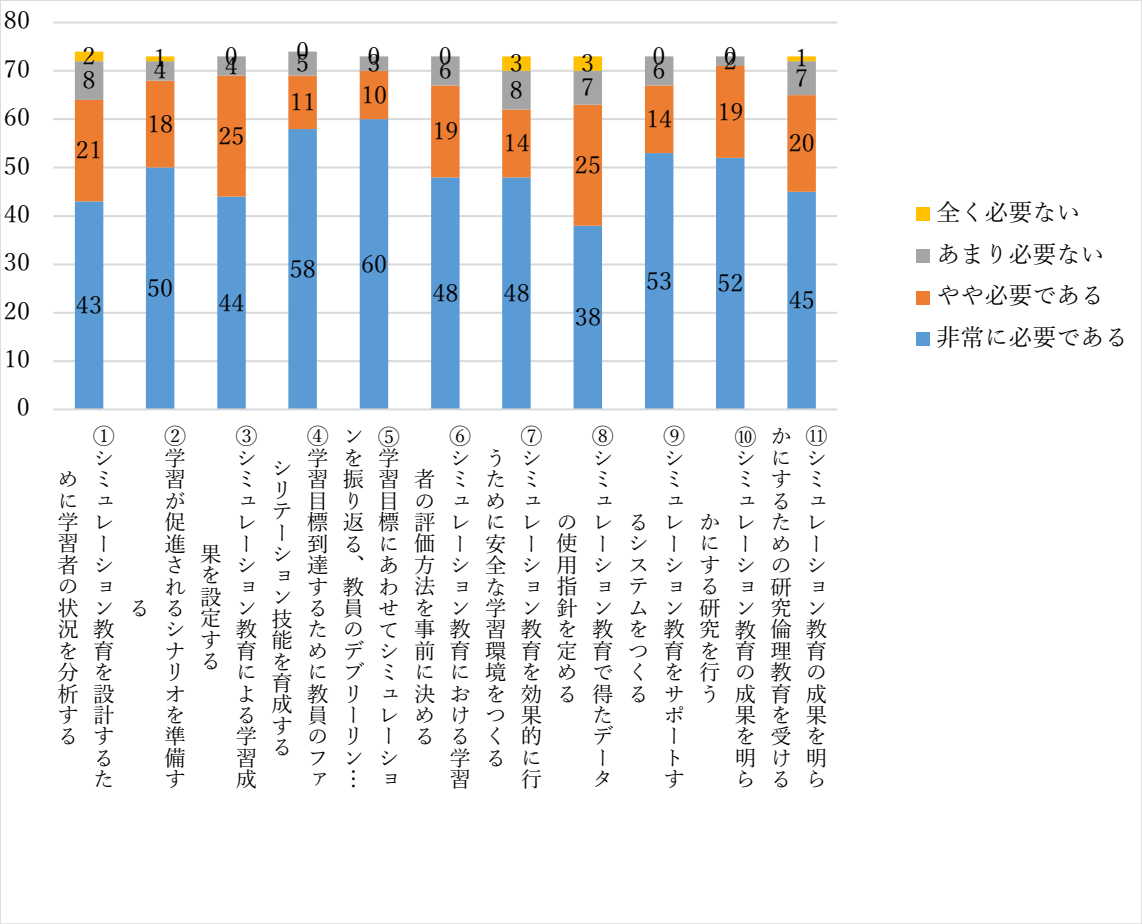

図 6 回答者がシミュレーション教育を実践する上で、どの程度支援を必要とするか

5) 自由記載の分析

①シミュレーション教育において回答者が認識する課題

52 名の回答者の記載があり、記述内容は 12 カテゴリーに整理できた（表1）。「ファシリテーション能力の向上」「デブリーフィング能力の向上」「シナリオ作成」「指導者育成」「教員間の連携の難しさ」「運用の難しさ」「人員不足」「設備の整備」「情報交換の機会」「到達度評価のあり方」「成果を明らかにする研究」「臨床現場と教育現場の連携」であった。

表1　シミュレーション教育に関する課題

カテゴリー	主な記述内容
ファシリテーション能力の向上	ファシリテーション技能の修得 教員のファシリテーション技能が低いことが課題 ファシリテーターのレベルアップ ファシリテーターとしての発問力向上 ファシリテータの育成
デブリーフィング能力の向上	デブリーフィング方法が未熟 デブリーフィングの能力、シミュレーターの活用 デブリーフィングにおいて、教員の能力の差があることで学生の学習効果に差が出ているかもしれない 学生の思考する力を高めるためには、教員のデブリーフィング能力を高めることが非常に重要であり、課題である 教員のデブリーフィング能力の育成が難しいこと。 シミュレーションでのデブリファーと同じように、臨床現場でも学習者に対してよい発問ができるようになること デブリーフィングをすることに対して、難しさより恥ずかしさを感じる人が多く、十分な研修が行えない
シナリオ作成	学習者に合わせたシナリオ作成 限られた時間で効果的なシミュレーション教育を行うためには周到な準備を必要とするので、状況設定やシナリオ作りの質を上げなければならない 効果的シナリオ作成に時間がかかる 他の業務によって、シナリオ作成や準備がなかなかできず時間捻出が大変 現場の臨場感の再現 期待する成果のシナリオ作りが難しい シナリオの設定と多領域との連携 ラダー別に合わせたシナリオ作成
指導者育成	シミュレーション教育が可能な教育者の育成。 アクティブラーニングとして、積極的にシミュレーションを取り入れている教育機関に差がある。経験のある指導者がまだまだ少ない。 指導の育成　学習内容を臨床で活用するための支援（病棟の教育体制の確立） 同僚【教員】に対する教育の必要性 シミュレーション教育の基本的スキルの習得 一緒にプログラムを担当する教員も同様にシミュレーション教育に関する知識と能力を身につけていただく必要があると思います。 教員の教育力の向上や、教育環境を整えるための設備も整える必要があり大学全体で取り組む必要もある
情報交換の機会	実践している教員と情報交換する機会がないため、自己流で行っている現状を改善することが課題である。 シナリオ設計の適切性を検討する仲間がいない。 自己学習が圧倒的に不足している。研修にも参加はしたもののいざ自分でとなると、自分がアクティブラーナーとして活動できていない。わかっていることともう少し深めて学習していき自学での効果的なシミュレーション教育として何ができるのかを検討していきたい。 授業を組み立てていく中で、検討し合う場がないこと、自分自身の柔軟性の低さなどが取り組みをむずかしくしている。 シミュレーション教育について勉強したいが、評価を十分にできないまま新年度がやってくる
教員間の連携の難しさ	領域によって温度差があり、全学部で実施することが難しい。 大学では科目横断的な取り組みが難しい 一緒にシミュレーション教育に取り組む教員間の連携が必要 教員間のシミュレーション教育に関する考え方の違いにより、シミュレーション教育が促進されない状況にある。 および他教員との教育的な価値観、教育指針の共有 教員間でシミュレーション教育についての共通認識がむずかしい。シミュレーションの研修を受けても、捉え方が教員各々相違があること。 他領域の教員に、シミュレーション教育の必要性を理解していただくことに苦戦している。 シミュレーション教育の必要性の理解・他領域の協力が得にくい（特に職位のある教員など）。
運用のむずかしさ	大人数（学生100人）でシミュレーション教育をする際にいつも課題として感じている。 学校として、カリキュラムを構築していくにあたり、どの時期にどの領域で、どのようにシミュレーションを入れて評価を行うか。 100名越える学生が実施するためのカリキュラム編成の理解と実施 学習者のレディネスをそろえるのが難しく、時として安全でない学習環境になってしまうことがあること。安全を配慮しすぎると学びが浅くなりすぎたり、学生が誤った自己認識を持つことがある。 教育する時間が短い。 まだ手探りの状態で実施している状況です。教授案の検討にかなりの時間が必要ですので時間調整に苦労しています。
人員不足	αテスト・βテストを実施してから授業を展開したいが、人員が確保できず、一発本番になる。 シミュレーション教育を行うためには人的資源の充実が必要と感じている シミュレーションスペシャリストなどの人材不足 模擬患者が確保できない。 教員の人数の増加もさることながら、シミュレーション室の管理運営ができる（シミュレーターの操作を含めて）人材の配置及び養成が必要
設備の整備	各大学でのシミュレーションラボの設備の充実。 教育環境を整えるための設備も整える必要があり 現存するシミュレーターとスマートフォンの連動
到達度評価のあり方	学習目標の到達度評価。 学習者の評価方法 教育評価についての研究蓄積 失敗してもよいという方法で実施しているため、評価を行わない点。研究としての実施。
成果を明らかにする研究	シミュレーション教育の成果を明らかにする研究をしてみたいが、研究計画が進まない
臨床現場と教育現場の連携	臨床現場と教育現場を教育者がもっとシームレスにするべき 現場の看護実践につながること

②学会に期待すること

38 名の回答者の記載があり、記述内容は 8 つに整理できた（表2）。「情報発信」「情報交換の場づくり」「研修会・セミナーの開催」「参加しやすい料金設定の研修」「教育効果測定や実証」「大型

研究の企画」「臨床と教育の連携の推進」「教授スキル向上を目指した企画」「学会活動の可視化」などであった。

表2　学会に期待すること（自由記載）

カテゴリー	記述内容
情報発信	様々なシミュレーション方法について情報発信をお願いします。 様々な情報発信をお願いします。 シミュレーション教育に関する世界の状況の情報提供（国際学会の報告など）
情報交換の場づくり	他施設のシミュレーション教育の状況を知りたい 他校の先生方との情報交換の場もあると良いと思う。 実際にシミュレーション教育を行っている人との意見交換ができる機会が欲しい。 様々な、取り組みとそれを評価する小グループの集まりなどがあると、日ごろの悩みを相談したり、工夫を共有し、学びの機会を得られるかなと思います。 新人教育や継続教育の一環としてのシミュレーション教育の指導法や情報交換 情報交換する場を設定してもらいたい。 情報交換の場やサポートシステムの構築を期待します 他施設で実施しているシミュレーション教育を見学できる体制構築（シミュレーション参観）
研修会・セミナーの開催	参加しやすい研修会の開催 研修を増やしてほしい。 研修会をもっとたくさん実施していただけたらと思います。 研修機会を多く設定いただけるとうれしいです。 研修の機会がどんどん増えてくるとありがたい。 学会でファシリテーション強化のセミナーをふやしていただきたい。 適切な教育方法のセミナーを受けたい。 シミュレーション教育の勉強会開催回数を多く行って欲しいです
参加しやすい料金設定の研修	研修や勉強会を参加しやすい料金で実施していほしい。 研修の回数を増やし、参加料ももう少し安くして欲しいです。
教育効果測定や実証	学部における全領域でシミュレーション教育を効果的に行う方法 臨床の場で行うシミュレーションの効果測定を学びたい 臨床現場の教育での教育効果を明らかにしていきたい 教育の効果の実証 研究としてのシミュレーションを行う方法を教授いただきたい。
大型研究の企画	米国同様にシミュレーション演習の実習への読み替えの厚生労働省への働きかけのための基礎的研究調査を科研費で行う
臨床と教育の連携の推進	臨床看護師を指導する看護師の多くに正しいシミュレーションの魅力を知り活用してもらえる活動推進を期待したい 臨床現場こそシミュレーションが豊富にあるにも関わらず、臨床のナースが教授ではない看護学領域の在り方自体を貴学会発信で改革してほしいと願っています。 一部教員向けの質問のようで答えに困った。JaNSSL研究活動推進委員会からのアンケートであるのであれば、 表現を工夫してもらいたかった。
教授スキル向上をめざした企画	教員の教授スキルアップの研修 シミュレーション教育とはだけではなく、シミュレーションを教育していくための構築方法を具体的に学ぶ方法の内容を検討してほしいです。どんな準備をしてどのくらいの年数・教員教育をどのくらいしていくのかなど学べる機会が欲しいです。うまく導入しているところと、うまくいっていないところの比較なども参考にしたいです。 指導者の育成 ありとあらゆるところで、同じことを繰り返すことがなく、新しく始める人たちが効率よくできるようにこれまでの経験の積み重ねを共有して欲しい。 指導力向上のためのプログラムに定期的に参加したい。 具体的なシミュレーションの展開方法 短時間でもできる効果的なシミュレーションのシナリオの作り方やその実演
学会活動の可視化	学会の活動内容が不明瞭なのでわからない。 新型コロナウイルス感染症で学会開催が困難だと思いますが、是非活動報告などの場があればと思います。よろしくお願いいたします。 残念ながら第１回が延期（中止）になりました。再会を楽しみにしております。 第1回の学会を楽しみにしておりました。今の状況が収束した後には、是非開催していただきたいと思います。

6 考察

シミュレーション教育の実施状況、シミュレーション教育に関する支援ニーズ、学会への期待の視点から考察を述べる。

1） 会員の実施するシミュレーション教育

所属施設でシミュレーションを実施している回答者は 71 名（93.4%）であり、特定の科目の中、実習の導入として、そして実践能力の評価として、の順に活用されていたが、科目横断的な活用や学年を超えた活用は少ない。教科ごとの編成、教員間の連携、学部全体での取り組みの難しさについて自由記載にも同様のコメントがあった。

回答者自身が実施している者は 69 名（90.8%）であり、活用目的は、知識と実践をつなぐため、臨床的思考プロセスを教授するため、技術習得を支援するための順に多かった。多くの回答者が複数の目的でシミュレーション教育を実施していることが分かった。

シミュレーション教育の工夫やアイディアや教材の共有をすることで、シミュレーション教育の負担を軽減し、効果的な活用方法を得られる可能性、情報交換、情報共有に生かしていける可能性、自由記載においてもシミュレーション教育の課題で、「情報交換の機会」を求める記述があることから、会員間の交流の機会をもつことが重要であると考えられた。調査結果を受け、理事会企画として既に会員情報交換会を Web で開催する活動を開始した。

今回、質問項目の選択肢が教育機関に偏った内容となったため、臨床でシミュレーション教育を活用している会員の実施状況を把握するには答えにくい内容であったと推察する。今後の調 査においては、臨床に所属する会員の実施状況を把握する質問項目を設定する必要がある。

2） 会員のシミュレーション教育に関する支援ニーズ

会員のシミュレーション教育に関する支援ニーズは、11 項目すべての項目で半数以上が「非常に必要である」と回答しており、シミュレーション教育を実践していくための能力の向上に関心が高いことがうかがえた。自由記載の内容においても「ファシリテーション能力の向上」「デブリーフィング能力の向上」「シナリオ作成」「指導者育成」といった項目が課題として記載されており、能力向上に関する支援ニーズが高いことがわかった。

これらは、本学会にシミュレーション教育力の向上を目的とする研修機会を提供することを期待していることが顕著に表れていることを示している。研修推進委員会が中心となり、看護シミュレーション教育指導者養成の研修会を継続的に実施する。また、コロナ禍でも受講できるように、ベーシックコース、アドバンスコースともにオンラインで開催できるよう改訂した。これらのコースは、International Nursing Association for Clinical Simulation and Learning のシミュレーションサイエンスに基づくシミュレーションベストプラクティススタンダード（INACSL Standards of Best Practice: Simulation©）に基づく。

3） シミュレーション教育に関する課題と期待

課題として能力の向上に関するもの、情報交換の機会や、連携の難しさ、運用の難しさ、人員や設備に関する課題、評価やシミュレーション教育の成果を明らかにする研究、臨床と教育の連携に整理できた。また、学会に期待することとして、情報発信や情報交換の場づくり、研修会セミナーの開催、研究に関して、臨床と教育の連携の推進、教授スキル向上を目指した企画、学会活動の可視化などが求められていた。

能力向上のための研修やセミナーの企画を推進していくとともに、学会員の交流の場づくりや情報発信の機会をつくり、学会員が利用できるシナリオや教材の共有をして、教育の成果を学会で

発表していただくことにより、教育実践の成果を共有し、データ化していけるようなしくみを検討することも必要である。学会員の教育実践の成果を共有するためにも、学会誌の発行についての検討が急務であると認識している。

7　まとめ

今回の調査は、シミュレーション教育実施の状況とシミュレーション教育を実践する上での支援ニーズを明らかにすることを目的に、日本看護シミュレーションラーニング学会の会員に対して行ったものであり、215 名中 89 名が回答（41.4%）し、有効回答数は 76 名（85.4%）であった。調査の時期は、COVID-19 の影響が出始めた 3 月～4 月であり、大学が令和2年度の授業や実習のあり方を検討している最中に本調査を実施したことが、影響していると考える。今回の調査だけでは、回収率が低く会員の状況を十分に反映しているとは言えない。シミュレーション教育の現状把握と課題抽出、そして会員の支援ニーズを把握する調査を今後も継続することにより、シミュレーション教育を普及していくための基礎資料にしていきたいと考えている。

謝辞

コロナ禍で本当に大変な中、調査に協力してくださった会員の皆様に、心よりお礼申し上げます。

文献

INACSL Standards Committee (2016, December). INACSL standards of best practice: Simulation[SM]　Simulation design. Clinical Simulation in Nursing, 12(S), S5-S12. http://dx.doi.org/10.1016/j.ecns.2016.09.005.

[redacted]

資料1

日本看護シミュレーションラーニング学会
学会員の皆さま

「シミュレーション教育の現状と支援ニーズに関する調査」ご協力のお願い

平素より本学会の運営にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、第1回日本シミュレーションラーニング学会学術集会は、延期または中止となりました。発表予定で準備をしてくださった皆様、また参加を予定して下っていた皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐための苦渋の決断であったことをご理解いただけますと幸いです。

さて、シミュレーション教育は、看護実践能力を育成するための教育方法として認識され、導入されていますが、実施においては教員不足、時間不足等、様々な課題があることが話題となっています。そこで、JaNSSL 研究活動推進委員会は、現場の支援ニーズを抽出したく「シミュレーション教育の現状と支援ニーズに関する調査」に取り組んでおります。

本調査は、JaNSSL 学会員の皆さまに、シミュレーション教育の実施状況と支援ニーズをお伺いする Web アンケート調査です。調査への協力の諾否による不利益は一切ありませんので、皆さまの自由意思でご協力するかどうか決めていただけます。調査は無記名ですので、個人が特定されることはありませんが、回答後の同意撤回はできません。調査においては、匿名化した上でデータを取り扱います。分析結果は、個人や施設が特定されないよう配慮した上で学会ホームページおよび社員総会等で公表する予定です。また、この調査の結果は、シミュレーション教育の効果的な活用に向けて学会の活動方針を決める基礎資料として活用させていただく予定です。調査終了後のデータは、2024 年まで責任者が管理し、保管期間終了後は、責任を持って削除します。

ご多用の折に誠に恐縮ですが、ご協力いただける場合は下記の URL または QR コードからアクセスし、令和 2 年 4 月末日までにご回答くださいますようお願い申し上げます。

URL [redacted]

この調査へのお問い合わせは、下記にお願いします

調査者　JaNSSL 研究活動推進委員会
代表　JaNSSL 研究活動推進委員会委員長　大川宣容
高知県立大学看護学部
〒781-8515　高知市池 2751-1
Tel&Fax [redacted]
E-mail：[redacted]

看護教育におけるシミュレーション教育に関する調査

1. あなたの現在の立場について、該当するものをすべて選択してください。
   □ 看護師　□ 助産師　□ 保健師　□ 医師　□ 専門学校・看護系短大教員
   □ 看護系大学教員　□ 研究員　□ 学生　□ その他：（　　）
2. どういう対象のシミュレーション教育に関わっておられますか。該当するものを選択してください。
   □ 看護基礎教育　□ 看護師の継続教育　□ その他　（　　）

3. あなたのご所属について、該当するものを選択してください。
   □ 国公立大学　□ 私立大学　□ 短期大学　□ 専門学校　□ 病院　□ その他（　）

4. あなたの専門領域について、該当するものを選択してください。
   □ 基礎看護学　□ 成人看護学　□ 精神看護学　□ 老人看護学
   □ 小児看護学　□ 母性看護学　□ 在宅看護学　□ 地域看護学　□ その他（　）

5. あなたの所属施設では、シミュレーション教育を行っていますか。
   □ はい（→6. の質問におこたえください）　□ いいえ（→ 7 の質問にお答えください）

6. 5. で、はいの方のみお答えください。
   あなたの所属施設におけるシミュレーション教育の活用状況について回答してください。

① 特定の科目の中で	□ はい	□ いいえ
② 科目横断的に	□ はい	□ いいえ
③ 実習の導入として	□ はい	□ いいえ
④ 実習の中で	□ はい	□ いいえ
⑤ 学年を超えて	□ はい	□ いいえ
⑥ 自己学習として	□ はい	□ いいえ
⑦ 実践能力の評価として	□ はい	□ いいえ

   ⑧ その他の活用をしている（　　）

7. あなたは、シミュレーション教育を行っていますか。
   □ はい（→8 の質問におこたえください）　□ いいえ（→ 9 の質問にお答えください）

8. 以下の項目について、あなたが行うシミュレーション教育の目的に該当するかどうか、お答えください。

① 知識と実践をつなぐため	□ はい	□ いいえ
② 臨床的思考プロセスを教授するため	□ はい	□ いいえ
③ 技術習得を支援するため	□ はい	□ いいえ
④ 学習成果を評価するため	□ はい	□ いいえ
⑤ 実習準備のため	□ はい	□ いいえ
⑥ 正規科目以外で学習支援のため	□ はい	□ いいえ

   上記以外の目的でシミュレーション教育を行っている場合は、どのような目的で行っているかお答えください。
   ⑦ （　　）

9. あなたがシミュレーション教育を実践する上で、以下の項目についてどの程度支援を必要とするか、当てはまる番号に〇をつけてください。

	必要ない	あまり必要ない	必要である	非常に必要である
① シミュレーション教育を設計するために学習者の状況を分析する	1	2	3	4
② 学習が促進されるシナリオを準備する	1	2	3	4
③ シミュレーション教育による学習成果を設定する	1	2	3	4
④ 学習目標到達するために教員のファシリテーション技能を育成する	1	2	3	4
⑤ 学習目標にあわせてシミュレーションを振り返る、教員のデブリーリングの能力を育成する	1	2	3	4
⑥ シミュレーション教育における学習者の評価方法を事前に決める	1	2	3	4
⑦ シミュレーション教育を効果的に行うために安全な学習環境をつくる	1	2	3	4
⑧ シミュレーション教育で得たデータの使用指針を定める	1	2	3	4
⑨ シミュレーション教育をサポートするシステムをつくる	1	2	3	4
⑩ シミュレーション教育の成果を明らかにする研究を行う	1	2	3	4
⑪ シミュレーション教育の成果を明らかにするための研究倫理教育を受ける	1	2	3	4

10. シミュレーション教育について、あなた自身が課題と感じていることを自由にお書きください。

11. 本学会に期待することがあれば、自由にお書きください。